

令和元年度 第3回 館山市子ども・子育て会議 要録

1	委員会名	館山市子ども・子育て会議
2	日時	令和2年2月14日(木) 14:00～16:00
3	会場	市役所2号館2階会議室
4	出席者	石渡委員長、齋藤委員、小峰委員、福原委員、菊井委員、中村委員、 鈴木(ひとみ)委員、庄司委員、田中委員、能重委員 (欠席者) 押元副委員長、越智委員、酒井委員、鈴木(智夫)委員、田邊委員
5	市側出席者	教育部長(こども課) 課長、副課長、職員 子育て支援係長 家庭児童係長 (株式会社ぎょうせい) 2名
6	会議次第	1 開 会 2 議 事 (1) 保育施設の利用定員の変更について【資料①】 (2) 「館山市第2期子ども・子育て支援事業計画」(案)に対するパブリックコメントへの意見集計結果について【資料②】 (3) 館山市第2期子ども・子育て支援事業計画(素案)第2稿について (4) 質疑・意見交換 (5) その他 3 閉 会

■議事

(1) 保育施設の利用定員の変更について

こども課副課長より、【資料①】に基づき報告。

■意見交換の詳細

(鈴木ひとみ委員) 館山ユネスコ保育園について、利用定員を減らすとのことだが、その理由が分かっていたら教えてほしい。

(副課長) 理由としては、過去3年間で、定員90人に達しておらず、実状に合わせた定員を設定したいということである。

(2)「館山市第2期子ども・子育て支援事業計画」(案)に対するパブリックコメントへの意見集計結果について

子育て支援係長より、【資料②】に基づき報告。

■意見交換の詳細

(小峰委員) 資料②の意見番号10でも指摘されているが、館山市においては保育士が不足していると思われる。私立については、定員見直しの話があったが、公立についても、定員を満たしていない園がみられ、その定員について見直しをする必要はないのか。

(副課長) 公立の保育園・こども園の定員については、平成30年度に見直しを行った。随時、実状に合わせて見直しを行っていきたいと思っている。

(課長) 定員については、施設面積に対して最大限預かることのできる人数があり、保育士の人数によって変わってくる。施設面積に対する定員については、基準の中で最大限の人数を設定しているので、保育士の人数が確保できれば、預かることのできる人数も変わってくる。園児数は、平成29年度をピークにして頭打ちの状況でもあり、今後も減少すれば、定員を見直す状況も出てくることもある。定員の枠を増やす、増やさないということ自体が市民サービスに直接影響を与えることはないが、保育士が集まらない以上は拡大はできない。計画の中では、確保に努めるとしか言えないが、千葉県待機児童対策協議会の情報を得ながら、どのようにしたら保育士の確保ができるかを考えていきたい。意見にもあった保育士の処遇改善は、国の方針もあり、市独自で実施するにしても限界があるが、大事なことだと認識している。

(齋藤委員) 保育士不足については、計画P.56にある「110 サポーター活動の検討」のような取組が担い手となればよいと思う。資格の有無という点が非常に大きいと思うが、本当に人手が足りないのならば、ボランティアを募集することもやってみて無駄ではないと思う。その分、施設の方の負担になったら申し訳ないが、前向きに考えていただければと思う。

- (課長) 計画に記載して終わりではなく、今後も点検・評価していくべきと考えている。ご意見いただいた内容については、現在も、保育園にバンドの人が音楽を聞かせに来てくれたり、お手伝いをしてくれたりするボランティアの方はいらっしゃるので、記載するならば、そうしたボランティアの方との関係性について一歩進んだことをやるべきだという認識でよいか。
- (齋藤委員) バンドや紙芝居等、子どもたちにとってよい経験になると思うが、おむつを替える、ごはんを食べさせる、着替えさせる等の日々の保育の手が足りないということが現場の一番大変なところかと思う。幼稚園に入っている補助の先生のように、正規雇用以外にも幅を広げることにはできないだろうか。有償無償に関わらず、手伝ってくれる方はいるのではないか。例えば、子どもたちが遊んでいるところを見守るだけでも、その間、先生たちは他のことができて助かるのではないかと思う。
- (課長) 計画に事業として記載しているような取組に対して、市民の方に無償でお願いするのは悪いという気持ちがある。また、私立がどのようにされているかはわからないが、公立の場合、誰でも自由に出入りができるような状況だと、かえって危険もあるかと思うので、その支援に来て下さる方のフィルターのかけ方が難しい。ボランティアで来ていただくとしても、まずは安心して任せられる人が来て下さるような仕組みづくりをしていかなければならない。しかし、マンパワーが足りない、と言っているだけでは先に進まないなので検討を進めていきたい。
- (齋藤委員) ファミリー・サポート・センターのまかせて会員等、研修を受けている人の力を借りることはできないか。自分も会員であるが、最近は依頼がないときもある。ファミリー・サポート・センターの会員だと、有償無償の問題が出てきてしまうが、もし、ボランティアで手を貸してくれる人がいるようであれば、その力を借りることもできるのではないか。
- (課長) 計画書に書いただけで終わることがないようにしていきたい。
- (齋藤委員) 資料②の意見番号2にある、元気な広場のこども服の交換デーは、元気な広場のスタッフの方が中心にやっているかと思う。現在、鋸南町の中央公民館で外部の持ち込み企画というかたちで洋服の交換会を行っており、計画書のP.42にも、「おさがり利用側方支援」と掲載があるので、こども課として後押しをしてくれたら、館山市でもやりたいと思っている。
- (課長) ありがたい話だと思う。
- (齋藤委員) 以前は、元気な広場でやっていたが、余った洋服をどう処分したらよいの

か分からず、元気な広場の人に押しつけるのも悪いと思い、フェードアウトしてしまった。一つの事業としてできるのであれば、狙いとしてはよいと思うし、それを目的に元気な広場に来る人もいると思うので、是非やりたいが、こども課として、何かバックアップはしていただけるのか。

(子育て支援係長) ありがたい申し出だと思う。元気な広場の利用者も増えるという期待もあるし、実行できれば非常によい。どうかたちでやるのか具体的に決まった段階で、できることを検討していきたい。

(齋藤委員) サークルとしてやって、それを監査するというかたちが一番かと思う。

(子育て支援係長) 「ゆずります・ゆずってくださいコーナー」があるので、それを活用し、お知らせするのもよいと思う。

(課長) こども課としてはよいが、元気な広場としてはどうか。

(石渡委員長) 元気な広場に、その仕組みはある。ゆずります・ゆずってくださいコーナーは、おもちゃやチャイルドシート等の大きなものについては、各自が「ゆずる」掲示をして直接人同士でやりとりを行うかたちとしている。以前は、元気な広場が物を預かり、その仲介をしていたが、細かい部品の組み立てが必要なものが多く、その説明等の問題から、直接やりとりをしてもらうようにした。衣類については、2週間等の期間を設けて「シロクロ」という交換コーナーを設置し、年齢別のロッカーから各自必要な人が持っていくというかたちにしている。本当は、元気な広場で受け取って対応できたらよいが、色々な物が来るので、夏物や冬物等期間を設けて場の提供をしている。齋藤委員の気持ちはありがたいので、お互いにより方法でできたらと思う。

(鈴木ひとみ委員) 資料②の意見番号 18、19、22、24 は、自然の中で子どもを遊ばせたいという意見である。遊び場の整備については、アンケートでも意見が大変多く、子どもたちが自分たちで遊びに行くことのできる場所が館山市にはないため、つくってほしい。しかし、遊び場の整備についての答えがないので、課題として今後検討してほしいと思う。場所やスタッフ等、まだ準備段階であるが、富崎で野外のプレパークをつくりたいと活動している人たちもいる。

(課長) 昨年度に実施したニーズ調査では、屋外の遊び場についての意見が際立って多かった。計画策定当初は、実現に向け、積極的に担当課に働きかけていたが、9月にあった台風被害によって厳しくなってしまった。必要なことに変わりはないので、復興が上向いた段階で、計画の毎年の評価の中でご意見をいただきながら進めていきたいと思う。

(鈴木ひとみ委員) 今回のような災害時にどうやって生きていくのか、子どもたちが身を持つ

で体験することは大事だと思う。何もないところでキャンプをしてみたり、電気・水・ガスも何もない生活を体験してみたりと、防災とタイアップした生活体験イベントを行ってみてもよいと思う。リノベーションスクールの講師の方からは、中央公園と図書館となのはなホール空間をもっと一体のものとして利用したら使い道があるのではないかというお話があった。その中に子どもの遊び場、体験学習場をつくれれば、全部含めてよい空間をつくれるのではないかと思う。

(石渡委員長) プレパークについては、生協が所有している八街の森をプレパークとして提供しており、月に1回ボランティアの方が活動をしている。また、私の田舎の長生郡睦沢町では、田んぼや畑を少し提供しており、千葉大学の先生とボランティアの方が月に1回ずつ睦沢町のプレパークの活動を行っている。場の提供というかたちで行うと、やりたいという方がいらっしゃると思う。

(3) 館山市第2期子ども・子育て支援事業計画(素案)第2稿について

株式会社ぎょうせいより、館山市第2期子ども・子育て支援事業計画(素案)に基づき報告。

■意見交換の詳細

○質問・意見なし

(4) 質疑・意見交換

(副課長) 計画の中に3点ほど追加したいと思う。まず、P.36「教育・保育サービスの質の向上」のところ、「情報共有を通じた保育環境の改善」の項目を追加したい。事業内容としては、「幼稚園・保育園・こども園の管理監督職、こども課からなる情報共有の場を定期的に設け、ヒヤリハット事例や危機管理、市内各園や先進地の取り組み等の情報を共有し、園生活の安全性・保育環境の向上を図ります」と内容を加える。次に、P.43「発育・発達に関する支援」のところに、「居住地園交流の実施」の項目を追加したい。事業内容としては、「障害や発育・発達に対する不安がある児童が将来、小学校への就学することを見据え、特別支援学校幼稚部と連携し、児童が居住する学区内の幼稚園・保育園・こども園で交流保育を実施します」と内容を加える。最後に、P.59「子どもの安全確保」という項目に、「園児の移動経路の安全性向上」ということで、事業内容としては「園児が校外活動などで移動する

経路について、関係機関と連携し、危険カ所を確認・改善し、安全性の向上に努めます」としたいと考えている。今説明した箇所については、計画に明記した上で、また改めてお配りしたいと思う。

(課長) 読み上げただけなので、理由について説明したい。「情報共有を通じた保育環境の改善」については、不審者対策や園での事故、台風のときに、各園で共通したマニュアルをつくって安全性を高めていかなければならないとの視点から、園を総括する代表者とこども課がきちっと対応を取れるようにという趣旨である。「居住地園交流の実施」については、幼稚園・保育園に行っていないケースもあり、そういう方が小学校に上がる際になめらかに行けるように、早い段階でチャンスを与えたいという趣旨である。「園児の移動経路の安全性向上」については、大津市を始め、園児の列に車が突っ込んでしまうという事故が増えている。通園経路や園外活動の箇所の安全については、他の課や警察とも連携して取り組んでいるが、今の時代なので、新しい市政として入れるべきだという判断から加えた。

(石渡委員長) 資料として、間に合わなかったのはどうしてか。

(課長) パブリックコメントで計画全体を通して読んだときに、騒ぎになったことへの対応が載っていなかったのが、改めて拾い上げた。

(齋藤委員) P. 59 「子どもの安全確保」の「防犯体制の充実」で、防犯ブザーを小学1年生と中学1年生女子にだけ配布しているとのことだが、男子には何で配らないのか。改善の余地があるのならば、男子にも配ればよいのではないか。先程パブリックコメントにもあったが、LGBT に対する配慮からは逆行しており、気になった。政策もそうだが、このように男子、女子で分けてしまうのはよくないと思う。

P. 58 に子ども会について「近年、自分の子どもを、子ども会や地域の行事等に参加させない親も増えており、その背景として、自分が役員になった場合の負担等を不安視し、地域の活動から距離を置こうとする姿がうかがわれます」とあるが、必ずしもそういう親だけではない。子ども会に魅力を感じず、私も入っていない。子ども会のあり方について、市がどのように考えているのか。この一文は、共感できなかつた。「させない親も増えており」というところが引っかかった。

(ぎょうせい) ニーズ調査の自由意見でこうした趣旨のご意見が多かったため、それを踏まえて文章を作成した。子ども会に魅力を感じない等の個々の細かい理由までは把握しきれないが、文章の言い回しは調整したい。

(齋藤委員) 子ども会に入っていない世帯は多く、子どもの小学校でも加入率は半分以下で、子ども会は必要かといったところまで論点としてある。子ども会が活性化したら素敵だとは思いますが、やりようは難しいと思う。そういった意味でも、問題提起として発言させていただいた。

(菊井委員) 齋藤委員のご意見に同感である。私の世代は子ども会が活発なときに役員等がかかわってきたが、いまは勤めている方が多く、各団体はいらぬという考え方になってきている。それは、忙しいのもあるだろうし、文化的なものがたくさんあるからかもしれないが、いざ台風等で何もない状況になると、私たち高齢者は覚悟もできるが、いまはその場で習わないとできない。結局、元に戻っているようにも思う。かたちは文化的でも、実際に必要なものは微々たるものと感じているが、いまの時代はそれでは生きていけない、と矛盾したところがある。このような状況で、連携と言っている、実際に連携できるのかと思う。

(鈴木ひとみ委員) 地元にいる人の顔を、知っておくことは、とても大事なことだと思う。不審者がいたとしても、地元の人の顔を知っていれば、声かけをしようとなる。子ども会は、イベントがあつて楽しいというだけではなく、地元の人の顔を知るきっかけだと思う。先程の「居住地園交流」についても同様だと思う。地域ぐるみで子育て、としたとき、一番近い地域は各町内会であり、災害があつても近所で助け合うつながりが本当に大事である。それをつくる意味で、子ども会を大事にしたいと思う。

(課長) この表現が議論の引き金となっていることを考えると、ニーズ調査から拾ってきた意見ではあつたが、「共稼ぎが増え、参加したくてもできない事情がある」という言葉に置き換えたいと思う。

(中村委員) 子ども会は我々の年代と今では環境も違うし、家族の関係も違うと思う。やはり、子ども会は子どもと子どものコミュニケーションがよく取れるところだと思う。お母さんだけではなく、お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんが出てきてもよい。子ども同士の色々なお話もあり、大切なので、これからも子ども会を続けていければよいと思う。

(ぎょうせい) これまでのご意見のやりとりから補足させていただく。第2期の計画では、9月の台風被害の影響を受け、「災害支援」という言葉を新たに入れたが、弊社で支援している近隣の自治体を見る限り、館山市のように大きく取り上げているところは見ないので、強く力を入れていると思う。先程、ご指摘のあった子ども会についても、ニーズ調査は台風被害の前に行ったものであり、幅広く寄せられた自由意見の中から一部を取り上げた課題にすぎない。台風の前後で、保護者の方の考え方も変わっているかもしれない。ただ、ご指摘の箇所については、誤解のないように事務局と相談し、修正していきたいと思う。

(石渡委員長) 今回いただいた意見も含めて追加・修正することを前提として、館山市第2期子ども・子育て支援事業計画の中身を了承いただけるならば拍手をお願いしたい。

○ 委員承諾

(5) その他

(石渡委員長) 元気な広場について、2月7日に10周年を迎え、来館者は延べ30万人となった。元気な広場は、館山市において親子が集まる地域コミュニティの位置づけもできると思う。委員の方々に様々なかたちで協力していただいた結果が、この30万人だと思うので、今後ともご活用いただければと思う。3月15日(日)10周年30万スマイルフェスタを開催するので、ぜひお越しいただきたい。

(庄司委員) 身内から聞いたことだが、若いお母さんたちが元気な広場で知り合えたおかげで、台風の災害のとき、お互いにコミュニケーションをとって支え合うことができたらしく、そういう交流がありがたいと身に染みた。例えば、広報で粉ミルクの配布等について放送されたことを、お母さんたちがLINE等でお互いに確認し合ったり、電気がつかなかった地域のため、実家に帰る方が、電気がつく地域の方に物を大切にしたいからと冷凍食品を託したこともあったりと、情報を交換し合うのだなと思った。元気な広場で知り合えたから、そういうやりとりができたと思うので、元気な広場には感謝している。

こども課の方には、幼児教育・保育の無償化のことでお世話になっているが、この無償化によって、幼稚園の預かり保育にも補助が出るとのことで、利用

者が6人程度から23人に増えた。内部の状況としては、職員が2、3人で
てんてこ舞いであるが、子育て家庭において経済的余裕ができ、生活を豊か
にする手助けになっているという点では嬉しくも思う。時代に応じた子育て
の在り方を肌で感じた。

先程、話題になった子ども会についても、時代の変化に伴い、共働き家庭が
増え、在り方は変わってきていると思う。しかし、昔ながらの子ども会につ
いても、地域のつながりということで本当に大切であると思う。4歳、5歳
の頃からの子ども会でのつながりがあり、その子どもが親になっても、親子
としてまた出会う。子育ては、人と人が支え合って、人の子も自分の子だ
として支え合っていくことがポイントではないかと、台風で被災したこと
により感じた。3歳児が停電という言葉を口にしたり、防災の広報放送のとき
には自然に大人しく耳を傾けしたりと、今の子どもたちは色々体験しながら
成長していると痛切に感じた令和元年となった。

(中村委員) 3月15日のスマイルフェスタについて、館山商工会議所女性会では、また
お手玉を持っていき、お手玉ころがしをさせていただきたいと思っている。

(鈴木ひとみ委員) ひとり親の家庭で、親が夜勤のために夜に子どもだけで留守番するケース
や保護者が夜遅くまでの勤務で、子どもたちが起きる時間にまだ寝ているケ
ースがあり、そういう状況では子どもが朝一人で起きて支度をし、朝食を食
べて、学校に行くことができない。そういった家庭にどう支援していくのか、
課題として今後みなさんには考えていただきたいと思う。

閉会